

令和7年度 第7回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ:仕事と介護の両立に向けた課題について

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、「仕事と介護の両立に向けた課題について」をテーマに、仕事と介護を両立している働く世代の皆様と意見交換を行いました。

【日時場所】 令和8年2月5日(木) 午後1時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 6名

(主な意見等)

- 介護と仕事の両立制度が会社にあっても、周知が不十分で、どのようにして使えばよいのか分からないことが多い。また、制度があっても使いづらい雰囲気がある限り、動き出せないと感じている。企業には、仕事と介護の両立をしやすい雰囲気を作ってもらいたい。
- テレワークについて、職務の違いから、活用できる社員とそうでない社員がいる。活用できない社員に合わせて全社的に活用しないのではなく、仕事の特性に合わせ柔軟に運用する工夫も必要だと感じている。
- 仕事や介護、家族の生活に追われる中で、介護の自覚がないまま続けている。日々の生活に一生懸命で、人に頼るという発想が出てこない。誰に相談すればよいのか分からず、ケアマネジャーや地域包括支援センターにつながるまで時間がかかった。具体的な行動方針が示されていれば、それに従って動けたかもしれないと感じている。
- 介護では家族がどうしても自ら動く“プレーヤー”になり続けてしまい、負担に気付かないまま過重になっていく。どこまで家族が担い、どこから専門職に任せるかの線引きは極めて難しく、任せることへの罪悪感も強い。無理を続ければ家族も本人も疲弊してしまうため、冷静に立ち止まれる場が必要だと感じている。
- 介護と仕事を両立するだけでなく、趣味や余暇といった“自分の時間”も大事だと感じている。将来的には趣味や気分転換の時間を確保できるようになりたい。仕事と介護の両立に加え、余暇や趣味がないと介護者が精神的に疲弊してしまうと思っている。
- ケアマネジャーやヘルパーが安心して働き続けられる環境がなければ、家族としても継続的に支援を受けられるのか不安になる。家族が“マネジャー的役割”を果たすためにも、介護従事者が安心して働ける環境づくりが必要。

(知事(県)の主な発言)

- 制度の周知不足や相談先が分かりにくい現状を強く受け止めている。まず「ここに相談すればよい」と示す明確な入口づくりを進める必要がある。また、家族が抱え込みすぎないよう“介護を任せることは悪いことではない”という意識づくりにも取り組むとともに、介護者自身の生活や思いが大切にされる環境づくりを、今後さらに進めていく。

